

審議会等会議録(概要版)

審議会等の名称	令和6年度第4回山口市公共交通委員会
開催日時	令和7年1月29日(水曜日)14:00~15:30
開催場所	山口総合支所 第2委員会室
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中委員長、鈴木文彦副委員長 他16名
欠席者	鈴木春菜委員、大原委員、渡瀬委員、山根委員
事務局	山口市都市整備部交通政策課
議題	1 令和6年度事業の進捗状況について 2 令和7年度事業計画及び予算(案)について 3 報告事項
内容	次第に基づき以下のとおり進められた。 1 議事 (1) 令和6年度事業の進捗状況について 事務局説明 質疑応答 ○副委員長 私も全てではないですけどもかなり幾つもの事業に直接いろいろ関わらせていただいて、実際、少しずつ動かしてまいりました。そういう意味で、補足というか、こういうものというのはある程度続けていくこと、着実に続けていくことが必要なことですので、そういう意味からすると、去年の事業報告の項目とあまり変わらないんじゃないかと思うかもしれませんが、そのときそのときの取り巻く環境等に応じた形で、中身をきちんと変えつつ、継続をしているということで、それをちゃんとやってきたというあたりのところは、一つ評価できるところかなと思います。それと、これも表面だけ見ると、本当にどれだけの効果があったのかみたいな話っていうのは、疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。ただ、例えば、運転士不足への対応であったり、あるいは利用者というか市民への公共交通へのアピールであったり、こういうことは今やれることは何でもやっていくというような意味もあると思いますし、それから、本当にある意味、コスパは悪いかもしれませんが、こういうことを続けていくことで啓発につながったり、あるいは、少しでもその意識をしてもらえんというようなことにはつながっているんだろうと思います。 今の報告の中にもありましたけれども、中にはずっと続けている中で、もう

少し改良が必要かなと思われるようなところもありますので、この辺については、今後、特にはっきり言うと、例えばノーマイカーデーのあり方であったり、あるいは、市職員向けのエコ通勤の推進であったり、この辺のところは呼びかけがメインなので、その呼びかけっていうのは、ただ呼びかけているだけでも、なかなか啓発にはつながらない部分もありますから、ターゲットであったり、あるいは手法であったり、この辺をもう少し工夫する必要もあるという気もしながら今年度事業を見てまいりましたので、引き続き、ブラッシュアップできるところブラッシュアップし、継続をしていければと思います。以上、今年度事業に関する補足です。

○A委員

職員向けのエコ通勤推進に関して、今、副委員長から御指摘がございましたが、やっていることに確かに意味があるんですが、今日これを進めていただく先生が欠席でございますので、もう少し、このメンバーの中で詳しく聞いていただいたほうがいいかなと思ひまして質問をします。

山口市の職員向けのエコ通勤に関しては、もう10年、20年やってきたわけですが、当初、それなりに効果があったのかもしれませんが、最近どうなんだろう、具体的な数字を含めて、数字が分からなくても雰囲気でも結構ですけど、改善しているのか、いや、もうこれ以上できないのか。新庁舎が建て替わるときにあたって、職員駐車場が足らなかったときがあったと思うんですね。そういうときにいろんな改善の工夫をしたのかな、余り効果がなかったのかな。この辺りにつきまして、もちろんやっていること、継続していることに意味がありますが、最近の傾向はどうなのかなっていうことを具体的にお伺いしたいと思い、もし数字が分かればあったほうがいいです。後からでも構いません。

○事務局

今御質問のございました、これまでの数字の流れを申し上げます。市職員向けのエコ通勤ですが、9ページでございます。26.3%ということで資料の記載をさせていただいておりますが、昨年度は30.1%でございました。似たような数字が近年続いている、30%前後というところが続いているんですが、平成30年ぐらいまで遡ると、35%というような数字も記録したことがございます。かなりマンネリ化している部分もありまして、30%前後で数字は推移している、若干下がりぎみで推移しているというところでございます。

そういったところもありまして改善に向けて、昨年度、一般の方も含めての話で、ノーマイカーデーの日に公共交通を利用いただいた皆様に、市内の飲食店の御協力を得ながら、いろんな特典を受けるという取組も以前から続けているんですが、そういった対象店舗を33件から98件に大幅に増加

をさせる取組をいたしております。また、これも昨年度からですが、ノーマイカードのカードを紙ベースではなくてスマートフォンなどに入るデジタル化っていうことも行ったところがございます。こうした新たな切り口で実施方法などを実施してまいったところではあるんですけど、なかなか数字自体が上がっていかないというところで、今後につきましてはセミナーですとか、そういったものと組み合わせて実施をするですとか、そもそも抜本的なやり方みたいなところも含めて、来年度に向けまして検討してみたいというふうに考えております。

○委員長

新本庁舎が整備されたときに、隣にあった中央駐車場がなくなって、そのときにその分母としての、車の自家用車の利用者数がどう変わったとか、そういったこともあると思うので、そのあたりの分析もしていただきながら、職員も毎年ずっと同じところに住んでいる人もいないかもしれないし、そういったことも、その分母の状況も分析しながら、また取組を考えて、一緒に考えましょう。

○B委員

この山口市総合時刻表なんですけど、本当にこちらに記載してあるとおりすごく喜ばれているものなんです。ただ、中には自分の必要なページだけを切り取られたり、赤とかいろんな丸をつけられている方がおられるんですよね。それを見るたびに、1ページぐらい自分で自己モビリティマネジメントですかね、自分が例えば、日赤に行きたいとかっていう場合は、何時に乗って、こういうふうにというように記載できるページを1ページ、2ページ入れていただくと。聞いておられる可能性もあるんですけども、そのほうが親切かなと。やはり声をお聞きすると、ちょっと文字が相変わらず小さいって言われるんですよね。ただ、これ以上文字を大きくすると大きくなってしまうので持ち運びに不便でしょうという話をする、確かにねって言われる。結局自分の必要なところというのはほとんどなくて、住まれている地域の部分だけというのを考えると、ページ数はほとんど必要なくなってくるんですね。ただ、自己モビリティマネジメントでやっていただくと便利になると、中には全部読まそうと思ったら、これを自分で作成して、山口市にハガキを送ったら何か当選しますとかすると楽しみがあるのかなと思います。

もう1点、前にもお話しましたが、このバスの乗り方教室という大変すばらしいものを、そこに警察や山口交通安全協会が交通安全教室を新入生を対象に毎年各小学校とかでやっていますけど、そのときに信号の絵をかいいたり、横断歩道の何かをやったりとかっていうふうにご子供たちに教えているんですけど、そこにバス教室と一緒にしていただくと楽しみもあって、また実際

にそのバスが、こういうふうなこういうときは人影が見えないからとかっていうことも一緒に教えていただくとすごくありがたいなと、交通安全教室に行くたびに思うものですから、その辺も考えていただければありがたいです。

○事務局

時刻表の話などすごく貴重な御意見、御提案をいただきましてありがとうございます。4月の時刻表の改定に向けての作業をこれから始めていくところなんです、紙面の都合もあったりするので、これからという訳ではないですが、チャレンジしてみたいと思っていますし、ウェブサイトなどにもそういう様式を出すとかっていうこともできると思いますので、そういった形で前向きに検討してみたいと思います。

それと、交通安全教室とバス教室の合同開催の話ですが、警察署とも調整をさせていただいて、可能であれば取り組んでみたいと考えております。

○B委員

警察署の中に交通安全協会がありますので。そちらが主催で日程を組んで、市内中学校、小学校の全校を回るようになっていますので、近隣の学校へ必ず私も参加するんですけど、そのたびに思います。ぜひ交通安全協会にお話いただければ。

○事務局

交通安全協会さん、それと御協力をいただいておりますバスの各事業者の皆様ですとか、県のバス協会の皆様、いろいろ御意見をお伺いしながら取り組んでみたいと思います。

○C委員

サイクル・アンド・ライド事業のことです。バスに自転車を持ち込むところなんかも見るんですけど、こういう話をすると委員の皆さんに怒られるかもしれませんが、なかなかバス満席になるということは難しいと思うんですね、もし可能であるのであれば、出入口の横の出入口の椅子を二、三脚ぐらい外して、自転車持ち込んで乗れるというふうなスペースをつくってあげられると、バス停から自転車に乗って、また降りたところから自転車に乗ってということで、何か、自転車に乗られる方の利便性が上がるのかなというふうに思ったんですけども、法律とかいろんなこともあるかもしれませんが、そういったことも感じましたので御提案させていただきます。

○事務局

自転車が、車内や前の部分にラックを設けて載せるような取組をされてお

られる地域やバス事業者もありますので、いろいろ人数との絡みもあるとは思いますが、その辺りも含めて、これからバス事業者の皆様と情報交換なり研究なりしてまいりたいと考えております。

○委員長

ありがとうございます。ほかに、今年度の実施状況についてありますか。よろしいですか。それではないようでしたら、引き続き今年度続いておりますので、こうした事業を引き続きやっていこうと思います。よろしくお願いいたしますと思います。

承認

(2) 令和7年度事業計画及び予算(案)について

事務局説明

質疑応答

○D委員

2番の令和6年度からの主な変更点の新規事業であるバス事業者のバックヤードツアーなんですけど、これはどういったところを目的としてつくられたのでしょうか。

○事務局

バス事業者のバックヤードツアーにつきましては、次年度から新たに取り組んでいくというものでございまして、これまでもバスの乗り方教室を開催してまいったんですけど、基本的に学校や団体の枠組みで開催してはいたんですが、もう少し参加者が広く募集できるような形で、例えば市報とかに掲載をして募集できるような形にして、興味がある方に広く御案内をする中で、バス事業者の皆様の御協力、バス協会さんの御協力を得ながら、通常のバス教室にあわせて、バスの整備工場とか、そういった部分についても見学できるような形で公共交通に対する興味というのを醸成してもらうような形で実施できないかなと考えておりまして、ぜひ来年度から実施をしたいと考えております。

○A委員

本年度の予算、来年度の予算というのではなくて、もう少し、中期的にこういうことも御検討いただけないかということをお話をさせていただいた

と思います。趣旨は、何が何でも小郡と山口、市街と旧市街ですね、そこを結ぶ幹線は、きちんとしなきゃならないんでしょうということをお話したいです。私、神戸に住んでおりまして、今日来たときに「さくら」で来たのですが、ちょっとしたミスで乗り遅れてしまいました。山口線が行ってしまった。「ん。」と思ったときに、この委員会行くことになっているものですから、時刻表は出しませんでしたけど、「そうだ。バスで行こう。」と思って乗りました。12時24分に「さくら」が着いて、12時25分発の山口線に乗れなかったか、そんな感じです。で、ふっと見たら、グーグルか乗換え案内を見ると出てくるんですね。防長交通のバスが12時50分発ということ分かったので、コンビニで適当なパンを買って待合室もきれいになりました。そこで食べて、そしてバスに乗ってきました。たくさん乗っておられました。16名乗っておられて、うち2名と1名が仕事で来られている方でした。仕事で来られている方も、どうもバスに乗ってこられているみたいです。結構使われているなと思いながら乗ってきました。言いたいことは、もし新山口でいろんな手段があるわけですから、誰でもがぱっとその手があるなっていうことを分かるようにしといてもらうことは重要かなって思うんですね。ちなみに、乗り遅れた後は、特急の特急券払って、1,000円で山口まで来るのが当然のことですし、そんなことをJRの駅の中で掲示することなんていうのは御法度だとは思いますが、乗客の立場に立てば、バスも使えるし、JRも使えるし、市役所とか県庁に行くんだったら「意外とバス便利よ。」ということもその場で分かれば、とてもいいのかなと思うんですね。それをするためにはどうしたらいいかというと、なかなかこれは難しい。JRの構内でそんなことはなかなか難しい。でも、何かそこを上手に告知する手段はないのかなっていうことを思っております。

もう1個だけ。実は私、事業者の都合だけで物事を決めるのはよくないと思ってます。目先の損得ではなくて、神戸は明石海峡大橋が開通してから、中四国方面へのバスが山のように来るようになりました。乗り場がそれぞれの事業者にあって場所が違って、もう無茶苦茶やったんです。高松駅行きが4か所あるとかみたいな感じです。あるとき、国交省の上級の方が、故郷が淡路で、そこに行こうとしたら、「次の洲本はいつですか。」と言ったら、「何番です。」と言うから、それに乗ろうと思ったら乗り遅れてしまって、「その次はもっと後。」みたいな話になって、隣を全然案内してくれなかったし、バスがスーッと通って行って、「あれはどういうことや。」と言って、霞ヶ関で怒鳴り散らしたそうです。どうなったかというと、事業者の別ではなくって、三宮から洲本に行くにはどれが分かりやすいのかな、というすぐキッチンと出るような形のものを、神姫バスのターミナルでも、それから、JRのターミナルでも見えるような形に、さらには、三宮駅の、JRのところでも見えるような形にするっていうことを、まずは地図をつくってそれから共通の時刻表をつくるみたいな、オンラインの案内を、まだグーグルマップで案内できる以前の話です。そういう

ものを国交省の実証実験でやったことがあります。1番重要なことは、個別の事業者の都合ではなくて、そこを利用する人たちが、分かりやすく便利で、せっかく新山口と山口の市街の中には、たくさんのバスも走っているし、たくさんの鉄道も走っているわけですから、それが自由に使えるように、県庁に行くんやったらそれは鉄道も便利だけでもバスでも時間が読めなくてバスでも行けますよ。とか、そういうことが分かるような、当然全部みんなグーグルマップもみんな持っていますけど、その手もあるよってということが分かるようなですね。案内の仕方が歩いて分かるような形で、できたらいいな。これは、事業者の方のそれぞれの立場もありますから難しい課題ですが、山口市の交通計画にとっては、幹線として指定された新山口と山口の間の活用ということ考えたときに、実は重要なことではないかなと思って今日乗り遅れたついでに悔しいので一生懸命考えてきた次第です。このあたりについては鈴木先生も詳しいと思いますので、一応御報告を申し上げました。

○委員長

ありがとうございます。これからまた、そのあたりについても研究してまいりたいと思っております。

○E委員

先ほど公共交通に関する乗換えですとかほかの経路というお話をしていただきましたので、少しだけ弊社の取組を御紹介させていただきますと、弊社のほうでリリースしておりますWESTERというアプリがございます。こちらのほうはそれぞれの公共交通事業者、加入していただかないといけないということにはなるのですけれども、加入頂いた事業者様につきましては別に鉄道のみならず、ほかの経路の検索、そしてお示しすることもできるというふうにしています。将来的にはもっと購入ができるとか、そしてもっと仕上げていければなと思っているところですけど、そういう形ですので、経路検索、GPSの現在地から、例えば山口市役所であれば山口市役所という形で入力していただければ、近くのバス停、あるいは駅という形での御案内もできるかと思っておりますので、弊社のWESTERの認知度がそこまで高くないので、しっかり広めて、こういうものがあるからこれで調べればいいんだというふうに、まず分かってもらうことが大事かと思っておりますけど、そういう取組をしておりますし、今後もしていきたいと思っておりますことを伝えさせていただければと思いました。

○委員長

ありがとうございます。ほかにはありますか。よろしいですか。それではないようでしたら、来年度の事業計画、そして予算案につきましては、このとお

り進めていくこととしたいと思います。

承認

2 報告事項

- ①タクシー共同配車アプリを活用した実証実験について
- ②徳地生活バスにおけるAIデマンド交通の導入について
- ③シェアサイクル実証事業について
- ④新たなモビリティサービス調査・実証事業について

事務局説明

質疑応答

○副委員長

シェアサイクル実証事業について、実際の利用実績等については非常によく分かりました。どんな方がどんな利用をされているかというのは、これまでにとったデータであったり、その中から見えることはありますでしょうか。

○事務局

市民の方の日常利用というところで、公共交通からのラストワンマイル的なところの移動に使われているケースもあると思いますし、湯田の利用状況を見ると、観光客の方がホテル周りですとか、近場の観光地をめぐったりというところがあるのかなと思います。毎年GPSを車両に取り付けて調査をしております、そういった動きがあるのかなと考えております。それと、山口大学、湯田温泉駅近辺ですとか、湯田温泉近辺から山口市役所までございます、このあたり中心商店街も含めたエリア、それと山口駅、こういう主だった拠点、そういった部分での行き来というのがかなり目立つような動き方をされておられますので、市民の方、観光客、あとビジネスで来訪された方も含めて、公共交通というところでは、少し時間が合わなかったりとか距離が短いといったところで使っていただける状況があるのかなと認識いたしております。

○B委員

この4番についてではなくて、1～4番全てなんですけど、実証期間は分かるんですけど、目標値っていうのは一切設けないんですか。また、その目標値を設けたとして、それによって本格実施っていう、何か基準というのは設け

ないということなんですか。

○事務局

報告事項で挙げております4つにつきましては、いずれも実証事業ということで開始をしております、順番にいきますと、タクシー共同配車アプリは、一応県事業で進めている中で、各種登録者数ですとか、注文件数の目標は定められていると伺っております。そういった実績を踏まえられて、次年度からは実証を外して、民間での自走といいますか、活用されると伺っておりますが、昨年1月に始めてからまだ1年余りというところで、引き続き市のほうでも支援はしてまいりたいと考えております。

2つ目の徳地生活バスも実証ということで進めておりますが、これは昨年10月から開始をしております、今しばらく利用者数や利用率の状況を、実証運行の中で確認をしていきたいと思っております、その中でダイヤやその辺りも利用実績を踏まえながら少しずつ改善をしていきたいと考えております。特に目標という意味ではこれまでの利用者に快適に使っていただくというところが大きな部分だろうと思いますので、資料の中で、昨年9月の実績の御紹介もさせていただきましたが、それを上回るような形での利用をしていただくというところをまずは目標として考えているところでございます。

シェアサイクルの実証事業につきましても、利用者数や収益、金額について、課題、件数ベースで御紹介をさせていただいておりますが、特に目標というところは定めてはおりません。そういった中で1番いいのは収益でこの事業が回せていけるというところが1番望ましいというふうに思っているのですが、なかなかそこまでの利用件数はないというところで、来年度の話にはなりますが委託事業者のほうも、今の事業者以外にもいろいろお話を聞きながら、1番いいのは自走ですが、それには届かなくてもある程度ランニングコストというのが圧縮できる方法がないかというのを、もう1年この実証を延長するという中で検討していきたいと考えております。

4つ目の新たなモビリティサービスの調査・実証事業についてですが、これは今年度で実証事業を終えて民間化というところで次年度からは進めたいと言いますが、民間委託を今年度中に終えていきたいと思っております。この事業を始めた時にはまだまだ民間のMaaSっていうのもそんなになくて、ある程度公共が主導していく、県も含めて始まった事業ですが、そういった中で県、公共が取り組んでいくという意味合いも大きかったと思っております、現在、JRさんでいきますと、先ほど御紹介のあったWESTERや tabiwa もございますし、そのほかにもライドパスとかそういういろいろ民間のMaaSも出そろってまいりまして、そうした中で、この事業については今年度で実証を終えて民間化というところを考えているところでございます。

○B委員

数値なのか、税金投入の金額なのか、支持率なのかっていうことが聞きたかったんですけど、結局、すぐにコミュニティバスの数値を言いそうですけど、今回黙っておきます。結局2年間だけとかっていうんで終わるものなのか、それとも続けていけるものなのかっていうことが、やはり一旦はじめたら続けていただきたいっていうのがやっぱり市民の意向だと思うんですね。そこに、持って行って、続けていっているけど、余りにも支持率が低いっていうことであれば、何らかのカンフル剤を打つとかっていうことをしていけないといけないので、やはり金額、私の気持ちとしては支持率っていうことになると思うんですね。そういうところもあって、ある程度決めておかないと、コミュニティバスの収支率50%という目標は1度も行かないのに、平成14年から続いているんですけど、そういったことを、もうちょっとみんなの市民の声を聞くということを重要にしていきたいという意味で先ほどの質問をさせていただきました。

○委員長

はじめたらなかなかやめるのは難しいところがある中で、何を実証して、実証っていう言葉をのけていくのかっていうところが重要なんだろうと思います。そのあたりも含めて、これからしっかりと検討していただきたいと思います。

○F委員

私は徳地に住んでいるんですけど、この徳地生活バス、八坂地域、串・島地地域にこれが走っている目的って何ですか。

○事務局

市民の方の移動を支えるというところで、本来であれば、路線バスや、市内ではコミュニティタクシーという制度もやっているんですが、そういったもので地域内の移動を支えていくというところなんですけど、やはり徳地や阿東地域は、特に広大な面積がある中で居住されている方も少ない、点在をしているという中で、なかなか事業者の努力ですとか地域の努力だけではそういった交通が担えないっていうところで、市が事業主体となって地域の交通を支えているというのが生活バスの目的となります。

○F委員

交通を支えた、その上の目的というのは何でしょう。交通が充実することによって、徳地地域、中山間地域、阿東であったり、海辺のほうで、秋穂のほうであったり、そういったところに住まれている高齢者の方にとって交通が充

実するという事は、どうなることを目的としてこの公共交通機関が動いてるのかなと。ちょっと厳しいことを言わせていただくと、徳地でいうと、徳地の中を、このバスがぐるぐる回っても何もないんですよ、正直。そこから山口市内であったり防府市内であったり、市街地に行かないと市民の住んでいる人たちの目的は達成できないんですね。特に高齢者は、病院が1つ、診療センターが徳地にできましたけど、かかりつけの病院なんていうのは、徳地の中にはありません。そこに行くために、皆さん1番困られてるんですね、地域の人たちは。この生活バスはありがたいんですけど、全部サッカー場で停まっていたり、堀で停まっていたりして、皆さんはそこから市内、そこから目的地に行く、そのつなぎのスムーズさっていうのを1番求められているんです。そこを、このチラシとか、行政のほうからも、これに乗ったらこうやって市内に行けるような感じには市内に着けるよ、終わったらいつまでにおうちに帰ってくれるよっていうところまで情報提供していただけると、高齢者の方なんかは助かるのじゃないかなと思います。

あと、的を得てなかったら申し訳ないんですけども私が毎回言っている、中山間地域に住んでいる子供たち、子育て世帯への公共交通からのアプローチというのが、なかなか案にも出てこないんで、そこをもう少し市民の声を聞いて、政策をつくっていただけたらなと思います。特に、中学校の部活が今後、学校でなくなるんです。そうすると、保護者の負担で部活への送迎っていうことが始まってきます。そこに公共交通機関が入ることによって、子供たちの利用促進であったり、学校を出てからの公共交通機関の利用促進につながるようなアプローチっていうのを今のうちから、教育委員会さんとか行政の中でしっかり情報共有して行っていただけるとうれしいなと思います。

○事務局

最初は、行きたいところの途中までしか行かないというところで地域を越えての移動というようなところのお話だったかと思いますが、市内いろいろバスや鉄道が走っておりますけど、今我々のほうでは昨年改定しました市民交通計画の中でも規定をしておるんですが、それぞれの乗り物の役割といいますか、市内を縦断横断するような大きな距離を移動する乗り物、路線バスですとか、鉄道なんかがそれに当たりますが、そういったものと地域の中をきめ細やかに回るところでコミュニティタクシーですとか、今御紹介いただいた生活バスをやっております。そうした中で、生活バスで最終目的地まで行ければ1番いいと思いますが、そこは長い距離の移動についてはある拠点から路線バスに乗換えていただいて、そういった地域の中を生活バス等で移動していただいて、そこから先については路線バスに乗り換えていただくと。御紹介した八坂ですとか、串・島地のほうのデマンド便につきまして

は基本的に路線バスのダイヤにうまく接続できるようなダイヤを組んでおりますので、乗り換えについてはスムーズにできるということを念頭に、こういうダイヤを組ませていただいているところでございます。いろいろ乗り物についても役割分担をしてやっているというところが実情ですので御理解いただければと考えております。

それと子供たちの移動について、以前から、この委員会でも取り上げていただいているお話でございまして、我々市役所の人間ですとか、徳地ということであれば防長交通さんともいろいろお話をする中で、課題であるということは重々認識はしているというところでございます。ただ前回、申し上げたとおりなんですけども、やはり深刻な運転士不足というのが続く中で、2024年問題というところも重なりまして、運転士さんの長時間労働ができなくなっているですとか、時間外勤務の制限があるっていうところなんですとか、インターバルの確保が義務化されたりというところで、特に早朝や夜間の運行というのが難しくなっていると伺っております。現状としては防府駅を出て堀に向かう便の最終が19時40分ぐらい。徳山駅を出て堀に向かう便が18時20分ぐらいということで、おっしゃるとおり部活動というところを考えると少し早いのかなというふうにも考えております。具体的にこれからどうできるというところはないんですけど、引き続き防長交通さんと協議、検討はしてみたいと思っております。また、我々交通のところだけではなくて、今部活動も地域移行を進めておりますので、そういった中で何かできることがないかというところも含めて幅広く検討してみたいと考えております。

○委員長

中学校の部活動の移行の話が出たので私からその情報提供させていただきますと、中学校の部活は地域へ移行しますが、基本は今の中学校の部活がそのまま、学校がするのではなくて、それを地域がやるような形に移行しようとしていますので、そこから新たな移動が発生するとか、そういったことはなるべくないような形で、今の学校でやられているその部活がそのまま地域移行になってもできるような形にしていこうということで進めております。ほかに何か御意見ございますでしょうか。よろしいですか。それでは以上で報告事項については終了させていただきます。それでは、その他ということになりますけども事務局からありますか。

○事務局

事務局のほうから特にございません。

○委員長

それでは委員さんのほうから何かあれば。

○副委員長

私のほうから今日の6年度事業の進捗状況あるいは7年度事業計画、報告事項等を受けて、コメントを申し上げさせていただきたいと思います。3時半までということでしたので、手短に申し上げますが、先ほど申しましたように、山口市の公共交通に関するこの公共交通委員会を中心とした事業を着実に進めてきている部分ではあるんですけど、ただ、やはり最近非常に大きく環境変化が見られるところがございます。大きく2つあって、1つは、とにかく資源が限られてきたということです。1番は、先ほど事務局からも話があった、とにかくいわゆる担い手、ドライバーがいないと。実際にはドライバーだけじゃなくて、バス会社さんやタクシー会社さんの事務員も整備士もいないんですけど、とにかく直接的にはドライバーがいないと。したがって、以前だったら、例えば補助金を積みばお金を積みば、新たなことができたんですけど、もうお金の問題ではなくて人的な問題で新たなこと、あるいは積み増していくことというのはなかなかできないというような状況にある。資源が限られているということをやっぱりある程度こしばらくのところは前提にせざるを得ないというところが1つあります。これを考えていきますと、これから何かを増やしていくというような形でのサービスアップとか、それからニーズに対応していくというやり方ではなくて、知恵を出しながら、いかに今あるものを有効に使って、より適切なものに育てていくか仕立てあげていくか、こういったことを考えていかなければならないというのが1点あると思います。

もう1つは、公共交通委員会も、昔の交通まちづくり委員会で議論していた頃からすると20年以上の長きにわたって市内の交通についていろいろ議論をし、実行に移してきたわけですけども、やはり、この間に大きく、交通というか移動を取り巻く環境といいますか、社会環境を含め、大きく変わってきているというところがあって、特に地域ごとに見ると、明らかに人口が減少し、高齢化が急速に進んでいるというような実態があります。そうすると実際の交通ニーズも、それぞれの地域で、当時いろいろ考えてきたこととは大きく変わってきている。ということは、もちろん事業を継続していくことは大切なんですけど、それぞれの時期や地域の状況に合わせた改善をしながら続けていかなければならないということになるかと思います。そういう一つの現れが先ほどの徳地生活バスという、徳地町時代から続けてきたものを継続した形をベースに進めてきた中で、実際の利用状況であったり、あるいは地域の移動の実態の変化等に合わせて、今回AIデマンドという形をとりつつ、形を変えてきたわけですけど、こういったように、それぞれの地域に、今までのものだけではない、何かその地域に寄り添った仕組みであったり形態が必要になってくる可能性があると思います。これまでもこの公共交通委員会を中心に、バスやタクシーを、あるいは鉄道を十分に活用しながら、

基本的には、コミュニティタクシーがあり、グループタクシーがあるというような形で、広く地域をカバーしてきてはいるんですけど、これをそれぞれの地域に応じたものを、もう一度ちょっと考え直していく必要もこれから出てくるかな、というふうに思いますので、今回の徳地のケースであったり、あるいは、阿東でもいろいろ今工夫が進んでいると聞いていますので、地域の中では、そういったものをその地域に合わせたものを育てていくということはバックアップしていかなければいけないと思うんですね。そうなってくると、より今度は大切なのは、先ほどF委員からの御質問等にもあった、それでは、それをどうつなげて必要な場所の移動を確保していくかということになると、今度はいわゆる基幹になる部分を、限られた資源ではありますけど、基幹になる部分をいかにより使えるものにしていくかという工夫が必要になってきます。これは、A委員もおっしゃったように、1番の基幹は恐らく新山口と山口を結ぶところだけど、またこの山口なり新山口から各地区を結ぶ交通というのは、それはそれでやっぱり、1つの大きな基幹になってくると思いますので、これを限られた資源の中でやるということは、ボリュームを増やすことではなくて、今ある資源を上手に使いながら、よりそのニーズに近づけていくようなものって何なのか、というあたりの工夫をこれから皆さんの知恵を借りながらやっていくことになろうかと思います。A委員が先ほど16人乗っておられたというお話をされましたが、私も昨日新山口駅からこちらへ乗ってくるバスは、13人乗ってきて、結構乗っている人もいるような状況でしたので、肌感覚として、私は20年ぐらい前にこの山口に関わったときからすると、やはり公共交通の利用だとか、あるいは依存度みたいなものは一定程度高まりを見せてるんだろうなという気もします。ですから、それは大切にしていかなければいけないし、特にそういう基幹交通については、これまでも今日の質問なり、あるいは報告の中にも出てきたように、分かりやすくしていく必要があるだろうなというふうに思いますので、もちろん情報提供するという意味での分かりやすさ、それから仕組みの上での分かりやすさ、それから、それこそバスの系統だったりといったようなものの分かりやすさ、いろんなものがあると思いますが、分かりやすいものにしていくことはやはり必要かなというふうに思っています。そういったことを今後考えつつ、より使えるものにしていくことはそれこそ皆さんのそれぞれの立場の知恵を出していただきながら考えていきたいというふうに私も思っていますので、ひとつ、次回以降の公共交通委員会もよろしく願いをしたいと思います。副委員長としての発言でございました。ありがとうございますよろしくお願いします。

○委員長

ありがとうございます。それでは、今日の会議はここで終わりたいと思います。事務局に返します。

	○事務局 長時間にわたりまして御審議いただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして令和6年度第4回山口市公共交通委員会を終了いたします。皆さん、本日は大変お疲れさまでした。
会議資料	令和6年度(第4回)山口市公共交通委員会議事次第 他
問い合わせ先	都市整備部 交通政策課 TEL 083-934-2729